

Kundo Koyama

小山薫堂

1964年6月23日 天草市生まれ。
放送作家として「料理の鉄人」や「THE 世界遺産」などを手掛ける。その一方で、映画脚本家としても、初脚本の「おくりびと」が米アカデミー賞外国語映画賞を獲得するなど高い評価を受けている

「くまもとサプライズ」の提案者・小山薫堂さんに「熊本の未来」には何が必要なのかを聞いてきました

く まもとサプライズは、新幹線開業で熊本にきた人たちを驚かせ

当たり前が幸せ
だと感じて欲しい

る（サプライズ）企画ではなく、

熊本の人に「日常をリセットしてもらう」ための企画です。この企画で、自分の中で、当たり前だと感じているものでも、県外から見れば、すごく特別で驚くような価値をもったものがあることを知ってもらおうのです。

僕は県外に出て、熊本の良さを実感しました。上京して体を洗ったり歯を磨いたりするときに水を使いますが、そのときに「やっぱり熊本の水はおいしいなあ」と感じるんです。熊本ではこのようなことを思ったことがありません。豊かな地下水を毎日気持ちよく使うことができる熊本県民はなんて幸せな人たちなんだろうと思いました。それが「当たり前の幸せ」です。

県民の皆さんに、日常生活の中で「当たり前前の幸せ」を見つけていって欲しいと思います。皆さんが「当たり前」を再認識することがサプライズになり、県外の人への「おもてなし」につ

ながるのではないかとと思っています。

僕

は、生まれ変わるならシャンパンを作る人になりたいんです。おめでたいときに、シャンパンで乾杯するようなことってありますよね？

そんな小さな幸せを演出する人になりたいんです。例えば、天使みたいに、陰に隠れながら、いろんな人生にちよつといたずらをして、人と人を巡り合わせたい。そして幸せになった人たちをこっそり見るのがうれしいですね（笑）。くまもとサプライズでも、僕の役割は、皆さんの背中をちよつと押してあげるだけだと思っています。それをきつかけに、熊本の魅力に気付いた人が動いて欲しいですね。

僕は幸せを運ぶ
天使になりたい

そして、地域の
人たちの熱き思い
が、熊本を変えま

す。しかし、全員が熱き思いを持つ必要はなく、それをみんなが応援していくことが大切なのです。熊本の人には、変えようとしている人を見守り、そして応援する人になって欲しい。それが熊本の幸せであり、みんなの幸福につながると思っていますから。

「新幹線開通」をきっかけに「熊本の魅力を再発見」してほしいと賛同した県内の広報担当者が集まり、取材や写真撮影を行い、みんなで言葉を選んで作り上げた合同企画です。私たちは、取材に一喜一憂しながら2人の思いを形にしました。それは、私たちにとってすべてが「サプライズ」でした。

2人が語ってくれた熊本の魅力とは、水や自然などの熊本に住む私たちにとって当たり前のものでした。しかし、それは日常生活の中に当たり前に浸透していて、その価値になかなか気付くことができません。

「当たり前が幸せ」と小山さん。「熊本の当たり前が他県の人から見ると、驚くこと」とスザンヌさん。

小山さんは「隣町にも、こんな良いところがあるんですよーって褒めあえたら熊本はもつと素晴らしい県になる」と話しました。熊本の良さを見つけたら、日本が新幹線でつながっていくように、自分のことだけでなく、互いに手をつなぐ。たった一人の思いや行動が連鎖し、そこに共感が生まれる…。今回の合同企画が、そんなきっかけになればと思います。

おもてなしには忘れてはならない笑顔添えて、熊本にサプライズを起こしましょう！